

循環器内科後期研修プログラム

I 目標

循環器疾患一般（特に近年増加傾向にある虚血性心疾患を中心とした）の診療が行えるようトレーニングを行い、また循環器専門医の資格を得るための経験をつむ。

II 治療実績

当院で経験できる循環器疾患は虚血性心疾患、弁膜症、心筋疾患、心不全、大動脈疾患、肺梗塞など。とくに力をいれているカテーテル検査、治療件数は以下の通りである。

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
負荷心電図	821	879	844	780	835	609
心臓超音波検査	2,478	2,396	2,596	2,402	2,439	2,627
心臓カテーテル検査	211	177	160	143	112	116
経皮的冠動脈形成術	64	58	44	44	48	35
経皮的末梢血管形成術	3	7	22	29	43	37
ペースメーカー手術	12	23	14	12	18	13

III 研修指導者

小林 博夫 循環器内科科長
高村 俊行 循環器内科医長
圓光 賢希 循環器内科医長

IV 研修プログラム

1年目	2年目	3年目
尾道市立市民病院	尾道市立市民病院	尾道市立市民病院
循環器疾患一般 (非侵襲的検査の研修) (希望により一般内科研修)	循環器疾患一般 (侵襲的検査の研修)	循環器疾患一般 (侵襲的検査の研修)

年次別研修内容

1年目（卒後3年目）

専門医の指導の下に診断、治療方針を立案し、治療を行う。

循環器疾患に対する知識を習得し、理解を深める。

心臓カテーテル検査、治療、心エコー、下肢静脈エコー、頸動脈エコーなどエコー検査、負荷心電図、心筋シンチ、MDCTなどに携わる。

※前期研修期間における内科研修が不十分と思われる場合、内科研修期間を適宜設ける。

2年目（卒後4年目）

専門医とともにより主体的に診断治療を行う。

心臓カテーテル検査を実践しカテーテル治療の補佐を行う。

観血的治療（一時的ペースメーカー留置、心嚢穿刺など）を実践する。

3年目（卒後5年目）

主治医として診断治療を行う。

心臓カテーテル検査を実践しカテーテル治療の補佐を行う。

観血的治療（永久ペースメーカー植込み、IABP挿入）を実践する。

※当院循環器科での研修年数は循環器専門医研修関連施設での研修として加算される。